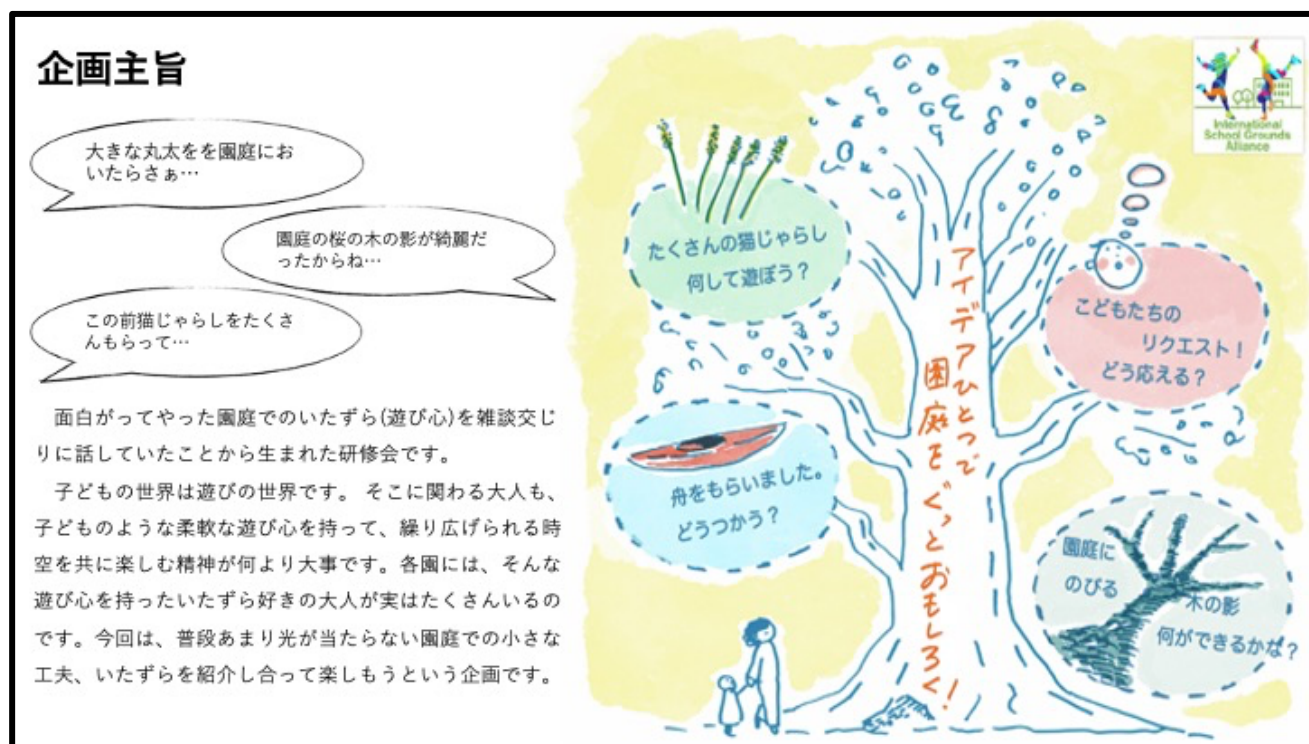


遊び心と小さな工夫で園庭を楽しくするアイデア創発セミナー



第1回：園庭を楽しくするコツやアイデアを知ろう！

【日程】 2021 年 1 月 29 日 (土) 16:30~18:00

【開催】 オンライン 参加者 51 名

【主催】 国際校庭園庭連合日本支部

【企画】 鮫島 良一 / 宮里 耕太

【スケジュール】

16:30~16:35 開会挨拶

仙田 考 (田園調布大学大学院准教授、国際校庭園庭連合日本支部代表)

16:35~16:45 司会挨拶

宮里 耕太 (学校法人塩原育英会太陽第一幼稚園主事、国際校庭園庭連合日本支部運営委員)

16:45~16:55ブレインストーミング：4つの事例のキーワードをもとにグループに分かれて話す

16:55~17:00 事例紹介 ～小さないたずらから大胆な挑戦まで～

宮里 耕太

中林 忍 (千葉明德短大附属幼稚園、国際校庭園庭連合日本支部会員)

木村 創 (向山こども園副園長、国際校庭園庭連合日本支部運営委員)

17:30~17:50 事例紹介とまとめ「アイデア創出とコツと方法」

鮫島 良一 (鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園園長、国際校庭園庭連合日本支部運営委員)

17:50~17:55 質疑応答

17:55~18:00 次回のインフォメーション

事例紹介（大きいいたずら・小さいいたずら）

宮里 耕太(学校法人塩原育英会太陽第一幼稚園 主事/国際校庭園庭連合日本支部 運営委員)



猫じゃらし

地域の方から沢山の猫じゃらしを買ったので、猫じゃらし屋をオープンしました



剪定した枝

園庭にある木を剪定。大量に出る枝。

大きい枝は園庭にドーンと置いてみたり、小枝はまとめて、さして、丸くして、謎の球体を作ってみました。

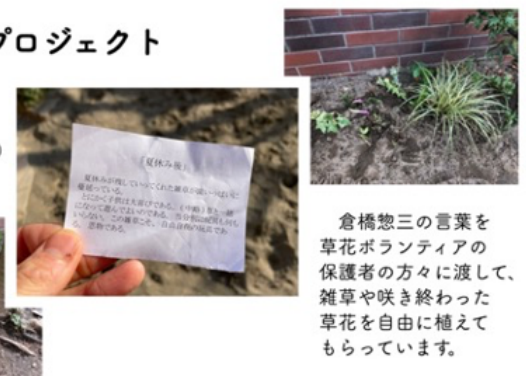


藁を園庭に置いてみる



雑草プロジェクト

保護者を巻き込んだ幼稚園の園庭を雑草(子どもの遊べる草花)だらけにしようというプロジェクト



中林 忍(千葉明德短大附属幼稚園 園庭長/国際校庭園庭連合日本支部 会員)



自然のいたずら

エノキの木が強風で折れてしまいました どうやってあそぼう？

つい最近…春の訪れを感じる場面もみられました

ぽかぽか陽気に寝転んで

ここあったかいんだよ



ボートをもらいました

陸の上では…

せーの！

カヌーを浮かべてみた

大人が使わなくなったものこそ子どもたちにとってはちょうどいい遊び道具になる

こんなの手に入らないよ！



たくさんどんぐり集めて…

どんぐりスケ

やっていくうちに もっともっと 楽しくならないか 発展していく



じゃぐち

水の出ない蛇口をつけたことでオレンジジュースやコーヒーなんでも出てきます



タンバリンのシンバル

何これ？音も感触もつついさわりたくなるピンポンインターホンにも早変わり



2本の線

線がひかれていっていると歩きたくなるいつか自分で描く時がくる！？





園庭は変わるもの という前提

向山こども園の園庭は、シーズンごとに地形も
含め大きく変わります。
園に重機が数台あり、山を移動したり、広場を
作ったり…。
こどもたちは日常的にこのような風景を見てい
るので、自分たちでこうしてほしい！とお願い
に行くこともあります。



地底人に会いたい！



こどもたちが一生懸命園庭を掘っていました。
話を聞くと地底人に会いたい！とのこと。
土を柔らかくするために水を持ってきて、大きな
穴を100m掘ると意気込む子どもたちは何日も穴を
掘り続けました。



ここ掘って！に 付き合ってみた！

自分たちで穴を掘ってもらうようにお願いした
子どもたち。
1mほどの穴を掘ってもらうと、土粘土や地層
が顔を見せ新たな興味も湧き出てきました。
こどもの夢望に素直に沿ってみると、新しい遊
びや興味の源になるんだということも学びま
した。
いろいろ学んでしまうと、いたずらを仕掛ける
のって案外難しくもあります。そんなときは子
どもの声に素直に乗ってみるのも面白いかもし
れません。



遊び心と小さな工夫＝イタズラのすすめ

- ・本セミナーの元のタイトルは、『園庭イタズラ大作戦』（仮）でした。
- ・イタズラ＝悪い印象があるのではないかな？
- ・そこで「イタズラ」を「遊び心と小さな工夫」と読み替えることにしました。
- ・私たちは、ナニゴトも子どもたちと共に面白がって行きたい。
- ・そのためには、子どもの心と響き合う「遊び心＝イタズラ心」が欠かせない。
- ・園庭は、室内と違って大人や先生が完全にコントロールできない。
- ・だからこそ、大人も子どもも「遊び心」がものをいう。
- ・「遊び心」は「真面目さ・真剣さ」の対極にあって交わらないの？

「遊び」と「真面目」と「イタズラ」の関係

- ・真剣でない遊びはつまらない＝本気だから面白い
- ・面白いなと思うから真剣になる
- 嘘っこと本当「お団子どうぞ」の実験
 - 1: 「ありがとう、いただきます」
 - 2: 「これ粘土だから食べられないよ」
 - 3: お、もぐもぐ…。
- ・この実験からわかること
- ・遊びは、ただの嘘っことでもただの本気でもなく、その間をゆらゆら揺れているから面白い
- ・我々はフィクションの世界を持つこと（表現・対象化すること）で支えられている

イタズラ心ですぐできる 園庭を楽しくするための 小さな工夫・5つの方法

イタズラその1

ないものを置いてみる・いつもの場所をずらしてみる





参加者の感想（一部紹介）

本日はありがとうございました。
 予算や工事、期間の大きな園庭環境整備にだけたよることなく、日々の小さな工夫や思い(イタズラ)の積み重ねこそが、豊かな園庭環境と子ども達の育ちの源であると感じました。また、そのことの積み重ねがより良い大きな環境整備へとつながったり、子ども達の育ちあいや遊びの伝承、伝統となってゆき、やがては園の文化となっていくのではないかと思います。自分のアイデア(イタズラ)がそうなってゆくよう、これからも園庭に出ようと思っています。
 少人数でのディスカッションも時間を設けることで、より良く濃い時間になったと思います。メンバーにも恵まれたように感じます。

ソフト面での小さな工夫で、面白いことがたくさんできるというのを感じられたセミナーでした。
 ユーモアのある先生はどうして魅力的なのか、ただ楽しいというだけではなく、少し理論的に考えられたのも興味深かったです。

この会自体がとても楽しく、わくわくしながらお話を伺えました。
 皆さんのアイデアが楽しく、また、何よりも面白がってやっているまさに「遊び心」ある姿が印象的。
 それくらいの感覚で、子ども達と共に過ごす、その中でちょっとしたエッセンスをまみれる日があってもいい、子どもの思いにつきあってみてもいい、願いを叶えよう一緒になって遊んでみてもいい、、日々いろいろであり、いろんな大人がいてもいい、そんな「いろいろ」を感じた時間となりました。
 「保育、保育・・・」という視点だけで考えていくと、時に大人が苦しくなり、子どもだって苦しくなるのではないのでしょうか。丁寧な関わりなどそういったことは当然のベースにおきつつ、大人も好きなことをして心地よく過ごしていきたいものです。ありがとうございました。

Zoom で会議はありますが、初めての方々と話をするのは初めてだったので緊張しましたが皆さんが、面白い回答をしてくださるので、なるほど・・・と自分の感性が固まりつつあると感じ、刺激を受けながら聞いていました。猫じゃらし屋の発想、様々な物を何かに使えるかも?と面白がられる雰囲気、いろんな物をもらえる関係性、地底人に合うために必死に穴を掘ることを共に楽しめる園と保護者の関係性・・・早速、明日職員に話をしたいと思います。さあ、職員がどんな反応をするのか楽しみです。そして、園庭に何をどんなふうに置いてみようかとワクワクしています。

コロナ禍で、どうしても子どもとの時間に制約が多くなってしまうことにやきもきしていましたが、事例で日々の保育の中に小さないたずらを仕掛けることで、大人も子どももほっと気持ちのゆるんで、ちょっとした発見を楽しむことができると感じました。
 素敵ないたずらをちりばめて日々過ごしていきたいと思っています。
 とても励みになりました。
 楽しい研修をありがとうございました。

遊び心と小さな工夫で園庭を楽しくするアイデア創発セミナー

第2回：みんなの工夫とアイデア募集！

【日程】 2022年 3月19日（土）16:30～18:00

【開催】 オンライン 参加者 21名

【主催】 国際校庭園庭連合日本支部

【企画】 鮫島 良一 / 宮里 耕太

【スケジュール】

16:30～16:35 司会挨拶 宮里 耕太

16:35～17:00 宿題発表：「園庭（または屋外）のいたずら」

17:00～17:45 グループワーク：発表を聞いての感想

17:45～17:55 各グループで出た話をシェア

17:55～18:15 まとめ 鮫島 良一

閉式

宿題発表&グループワーク（一部紹介）

順番に2分程度で提出した写真について解説をした。全課題提出者の発表後、3グループに分かれて、感想や自園で行なうならばどのようにやるか語り合った。付箋はそこで出た言葉たちである。

※付箋の色：グループカラー（1G：黄色/2G：ピンク/3G：水色/宮里：緑色/鮫島：オレンジ）



雪の日は、外で遊べないので、0歳児クラスの子どもたちの前に園庭に積もった雪を置いてみた。



掌に雪を乗せて見せると、ちゃんと触れてみた1歳児。

園庭と園舎を繋げるのが大人の役割

◎おすすめの実験◎「雪に水性ペン」さあどうなるでしょうか～

雨も園舎に入ると子どもたちの気づきになる

園庭と園舎をつなげるのいいですね。

外を内に持ち込んだ事例ですね。あたたかい膝の上にいるから、冷たい雪にもさわれたんですね。人の温もりには不思議な力がありますね。（鮫島）

桶に水をはるもあった

名古屋に近いので雪は少ない

保育室に雪を持ってきた

子どもはすぐに手を入れる

興味のある子とそうでない子にわかれる

なかなか雪の世界に飛び込んではいけなかった。安心した室内空間で雪と遊び、楽しむことができるのは素敵ですね。（宮里）



自然と群がる子ども達



私は、料理が好きで好きでたまりません。もちろん食べることも好きです。ここで覚えておいてほしいのは、子どもは給食も普通に食べて、追加でわたしの手料理を食べているということです。(軽い部活です)



火も消えそうになってきて、このまま終わるのも何だかなあ。餅でも焼きたいけど、餅なんが無いなあ。あれっ、そういえばプラスチックのお飾り餅の中に本物のお餅入って無かったっけ?? おお! あったぞー!! の図

さとしの気まぐれクック!! 今日はこちらの食材を捌いていくっ!! ある週は3回ほど屋外調理をしました。月曜日: おでん。水曜日: 豚汁。金曜日: 鶏飯(ごはんは羽釜炊き)

鹿児島県の園

ユンボで新しい園庭を作る

園庭で料理を作るのは、食の興味を生む

コロナで調理保育ができない

火・食・気まぐれ、最高です。こんなワクワクする園庭にはずっといたい。(宮里)

火を囲むというのは、暮らしの原点ではないかな。良い園には、必ず七輪やかまどがありますね。それにしてお美味しそう。鶏飯って鳥のスープご飯、鹿児島県の郷土料理です。(鮫島)

火は良い!!

鶏めしだよ!

コロナ禍でできるのがすごい

IHの普及で火を見たことのない子もいる現代

子どもたちに何がイカをリクエストする

うちの園ではブルーシートを敷いて食べる

最近ではできないが。



ポリバケツの底をぬいてみた。
~プロローグ~ 私とあなたの関係~

雪いっぱいがおもしろい

雪じゃなくても土でも面白い



おススメは小さいのもOK。透明のモノも地層みたいになり面白い。



年齢に応じてバケツの大きさを変えても面白い

ポリバケツのアイデア頂きます!!

ポリバケツ面白い



ポリバケツの底をぬいてみた。
~モノローグ~ 私とあなたとその先の関係~

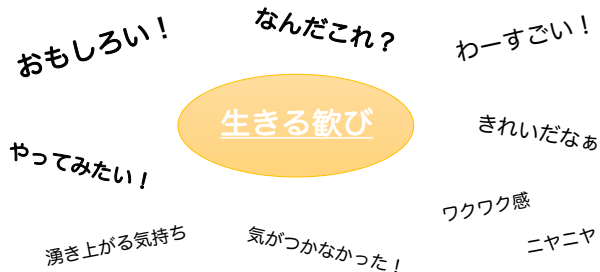
穴っていいですね。型抜きだけでなく、覗いたり、自ら入ったり、大人ながら、これで何しようかなーと色々と考えてしまいます(宮里)

穴の空いたバケツがあるだけで、子どもたちからいろいろな工夫が生まれていますね。これで何かできないかなってというのは、遊びの原点ではないでしょうか。(鮫島)

まとめ（一部紹介）

鮫島 良一（鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 園長/国際校庭園庭連合日本支部 運営委員）

寄せられた園庭での取り組み

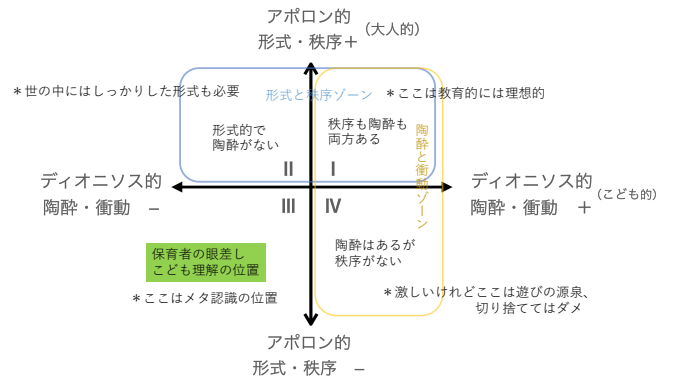


どうしてこんなにおもしろいと感じるのだろう？

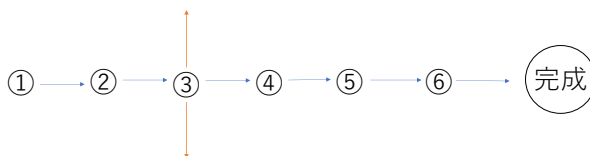
- ・参加者の皆さんがピュアだから
- ・こどもみたいに楽しもうとしているから
- ・園庭や屋外だから
- ・室内→人工物：意図的に作られた空間。人間の制御下にあって変化の少ない世界。
- ・屋外→自然：人間の思い通りにならない時空。圧倒的な変化と偶然。
- ・近代の文明は、合理性とその美しさを求めてきた。（都市化）
- ・こどもの世界はその対極にあって、その原始性、多元的な時間こそ、疲弊した現代人を甦生させるエネルギーを持つことが指摘されている。それは、古代からある「遊びに没頭する人間」の素晴らしさである。

遊び＝単なる学習ではない！

- ・こどもたちの遊びは、突然全く異なる内容に変わったかと思うと、急に終わったりする。そのあっけらかんとした非合理性、その豊かな即興性に拍手を送りたい。
- ・こどもの行動、遊びの原理は、善－悪、正しいか－間違っているかではなく、面白く、楽しい、快感であることが全て。
- ・遊びをすぐお勉強に結びつけようとするのは安易。
- ・遊びには当然危険も伴う、都合よく小さく遊びを捉えるのは反対。
- ・私達は教育や文化の内に「子どもの遊び」のような、生きる喜びの息づく世界を決して失ってはならない。



予定調和を超えて：自由と偶然



* 言葉をもちて意味を紡ぐ人間の思考の構造（ソシユール）

- ・シンタグム（連辞関係）→ とパラダイム（連合関係）↑↓
- ・言葉とイメージ（ディティール）・アナログの質感の世界の豊かさ

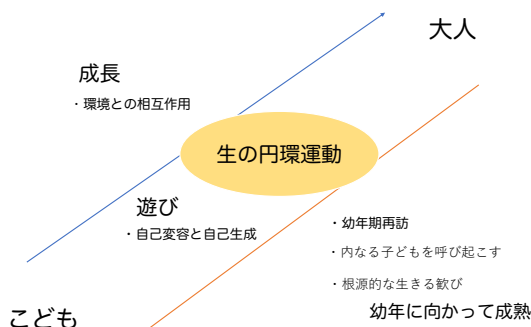
園庭は私たちに何をもたらすのか？

- ・自然という偶然を受け止めトライする自由な精神
- ・全てを合理的にコントロールできるとか、すれば良いということではない。
- ・私たちは、答えのない世界に生きている。
- ・偶然を全身で感じるとる感性を磨く。おもしろがる。
- ・可能性に身を投じ、あれこれ試したり、思いを巡らせたり、。。
- ・＝創造的であるということ
- ・園庭には、そうした魅力の種がたくさんある。
- ・こどもたちと共に、生きる喜びが息づく世界を再訪しよう。
- ・それは、自分の中の内なる子どもを呼び起こすことでもある。

おわりに

- ・園庭という可能性のある場所
- ・子どもという純粋でとってもかわいくておもしろい存在
- ・子どもの世界に魅了されている遊び心あるの大人たち
- ・役者は揃っています。

- ・もっともっといろんな方法や楽しみ方がある
- ・内なる子どもを呼び起こして、おもしろいこと続けませんか？
- ・今回のように取り組みを紹介し合う企画。園庭いたずら通信。



参加者の感想（一部紹介）

今回のセミナーで良かった点・理解できた点	今回のセミナーを通して、ご自身の活動で今後実践してみたいこと	その他、ご感想、お気づきになったこと
皆さんの多様で豊かな発想力に刺激され、固定観念を捨てて、遊び心、いたずら心を大切にしようと思いました！	園の雑草を見直す、保護者を巻き込む、さりげなく何かを置く、日常をずらす、ドングリスケート、タンパリンのシンバルつけたみたいな発想、e t c	ぜひまた開催してください！
皆さんの視点が素敵でした おひとりずつお声もきけて、コーディネーターの木村先生がグループの方の写真を中心にリラックスしながら皆で会話していく形がとても良かったです。学生の方もいらっしゃいましたが、感性豊かな方が多くすてきな話を生き生きと嬉しそうになさってくださいました。	大人も 子どもも ほっとするような ぷっと笑えるような そんな瞬間を大切にしたいと思います	
皆さんの実践や視点を知ることができて勉強になりました。	日常的に食を取り入れた実践をしていきたいと思っています。	自然と子ども、親子、子育てについて、今までふわっと実践してきましたが、鮫島先生のまとめをお聴きし、なぜ必要か、それがどういった意味があるのかを意識しつつ、面白がりながら偶然を楽しみながら日々過ごしていけると良いなと感じました。貴重なお話、ありがとうございました。
子どもと自然、環境や大人とのかかわりなど、大人が楽しんで環境を変えていくことで子どもとの時間が豊かになることを改めて確認できました。	大人のちょっとしたいたずらで子どもや保護者の心をくすぐれることはとても素敵な実践だと思いました。いつものものを置いてみる、影や地面をキャンパスにしてみる、何かを大量に集めてみる...など、大人のあそび心を育てていきたいなと思います。	普段の実践が肯定されて「これでいいんだ」「仲間がいた！」「もっと何かしてやろう！」と思える研修会でした。参加した後はスッキリして、わくわくするようなすがすがしさがありませんでした。ご縁があって参加できたことを感謝いたします。ありがとうございました。

終わりに

鮫島先生との雑談から生まれた本企画。「自分たち以外にも絶対に面白がってくれる人がいるはず」と企画をしましたが、実際に全国津々浦々の方が興味を持って参加してくださったことにとても嬉しく思っています。

1 回目のグループディスカッションの中では色々なアイデアが飛び交い、2 回目の宿題発表ではすぐにでもやってみようという実践ばかり。2 回とも 90 分という時間があっという間に終わってしまいました。

大変なことだらけなご時世ですが、本連続セミナーで語り合ってきたような遊び心・いたずら心を大切に子ども達との園庭ライフを楽しんでいただけたらと思います。

そして、またいつの日か皆様と語り合える機会を楽しみにしております。

企画者 宮里 耕太（太陽第一幼稚園）

子どもを、単なる教え諭すべき未熟な存在とだけ捉えるか、生きる歓びに溢れた可能性ある存在として捉えるか、そこが大きいのだと思います。今回、この企画に興味を抱き参加いただいた皆さんは、子どもの精神を大事にしている方ばかりで、そのことがこの会を和やかで楽しいものとなりました。全国には、子どもと一緒に、子どもに負けないくらい柔軟な遊び心を持った大人がたくさんいることが確認でき、嬉しく思いました。みなさんの取り組み、素晴らしかった！

園庭は、都市化された教育環境の中で、残された自然です。自然は、室内のように制御できず移り変わります。その変化や偶然が、人の心や体を動かし想像を掻き立てます。だからこそ園庭には魅力があるのです。子どもという存在もまた、現代の社会の中で残された自然なのかもしれません。またお会いしましょう。

企画者 鮫島良一（鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園）